

令和元年6月21日

福生市長 加藤 育男 殿

福生市環境マネジメントシステム目標設定チーム

代表監査員 田中 俊朗

副代表監査員

石毛 和夫

矢ヶ崎 冬木

瀬谷 次子

小澤 はる奈

## F-e 数値目標監査報告書

F-e 数値目標の監査結果について、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査日時

令和元年6月21日（金） 9:00～11:45

### 2. 監査対象

福生市役所

※市有施設におけるエネルギー使用量（電気・都市ガス・LPG・A重油・軽油）および自動車利用によるエネルギー使用量（ガソリン・軽油・天然ガス）については消防団施設、道路照明を除く。可燃系廃棄物発生量（重さ・400袋）については小中学校を除く。水道水使用量については消防団施設、市営プール、小中学校プールを除く。

### 3. 監査結果

		平成 30 年度 数値目標			達成状況	部門評価
		内容	目標値	実績		
環境配慮	市有施設におけるエネルギー使用量削減	電気	7,370 千 kWh	7,259 千 kWh	達成	△
		都市ガス、LPG、A 重油、軽油	655.4kℓ	703.8kℓ	未達成	
	自動車利用によるエネルギー使用量削減（ガソリン、軽油、天然ガス）		33.5kℓ	32.5kℓ	達成	
	市有施設における可燃系廃棄物発生抑制	重さ	41,680kg	41,746kg	未達成	
		40ℓ袋	2,067 袋	2,155 袋	未達成	
	コピー用紙の使用量削減		5,121 千枚	5,152 千枚	未達成	
	市有施設における水道水の使用量削減		81,908 m <sup>3</sup>	92,378 m <sup>3</sup>	未達成	
環境経営	各課の環境配慮取組み状況の点検	環境負荷調査の実施	4 回	4 回	達成	○
		環境協働報告	1 回	1 回	達成	
	環境配慮に関する取組み状況の内部共有	会議録の情報発信	5 回	5 回	達成	
		情報発信（F-e ニュースの発行）	4 回	4 回	達成	
環境協働	環境配慮取組み状況の情報一般公開	広報・HP	4 回	5 回	達成	○
		「福生市の環境」への掲載	1 回	1 回	達成	
	市民編集員による環境情報の発信	かんきょう通信の発行	2 回	2 回	達成	

※ 評価：○＝良好、△＝軽微だが改善すべき点あり、×＝勧告に値すべき点あり

## 4. 所見

平成 30 年度の数値目標の達成状況について監査した結果、環境配慮の視点の目標は「△（軽微だが改善すべき点あり）」、環境経営および環境協働の視点の目標は「○（良好）」と評価しました。以下に評価所見をまとめます。

### 1. 環境配慮

7つの目標項目のうち、5項目で目標達成に至りませんでした。

電気以外のエネルギー使用量は、昨年度と比較して特に第 2 四半期における超過率が高くなっていました。夏季の猛暑のため空調設備の稼働が増大したなどの理由のほか、学校の空調設備改修工事に伴い、夏季休業中に職員室の代替で体育館を使用したことも要因です。最もエネルギー使用量が大きい防災食育センターにおいて目標を超過したことが影響していますが、通年稼働したばかりの施設であり、引き続き実績値の丁寧な分析と、効率的な設備機器の運転に向けた運用上の工夫を重ねてください。

可燃系廃棄物（重さ）については、防災食育センターにおいて想定以上の生ごみが発生したために目標を超過しました。防災食育センターは、平成 30 年度に初めて通年で稼働した施設であることから、今後も定常状態の把握を目指し検証を続けてください。また、調理くずや残食の発生量を課題と捉え、削減余地があるのかなどをよく検証し、生ごみ排出量の抑制に向けた運用をしていただければと思います。

可燃系廃棄物（40ℓ袋）については、目標値設定ミスがあったほか、実績値の計上の誤りも見られました。ごみ排出量は業務との関連を捉えやすい項目です。各部署で結果とその背景についてしっかり分析され、ごみを出さないための整理整頓・3Rの意識徹底をお願いします。

コピー用紙使用量については、本庁舎で使用する一括購入分が昨年度を大きく上回る量となってしまいました。個別の数値目標がなくても、すべての部署が削減への責任を負っていることを認識して日々の業務を見直すとともに、ペーパーレス化への取り組みをより一層推進していただくことを望みます。

### 2. 環境経営

各部署に対する調査と結果の集約、情報発信は予定どおり実施されました。

庁内全体の仕組みとしては確立している一方、「環境配慮」分野の結果からは、PDCAの「C：チェック」と「A：アクション」が個々の部署で働いていない現状を指摘せざるを得ません。実行責任者の役割は、環境負荷調査のデータを提出することではなく、実績に対する注意喚起があった場合にその原因を追究し対策をとることが重要です。実績に対する適切な考察は、部署の業務を点検することにもつながります。今一度、各実行責任者がPDCAの意義と自らの役割を捉え直していただきたいと思います。また、事務局は各部署での振り返りを促すよう、環境負荷調査の様式等を工夫してください。

### 3. 環境協働

環境に関わる情報の公開、市民編集員によるかんきょう通信の発行は予定どおり実施されました。昨年度から、単なる実施回数ではなくその内容・質の向上を目指す目標が必要であることを指摘していましたが、これを受けて令和元年度から「環境協働報告」を本分野に移動し、各部署での協働を前進させることを目標とすることが決定されました。協働事業を実施する各部署でこの目標の意義を理解し、取り組みに工夫を加えていただくことを期待します。このことにより、F・eが目指す「環境活動の市民への波及」が市内の様々な場面で広がっていく具体的な姿が見えてくると思います。